

伊賀流自治の視点

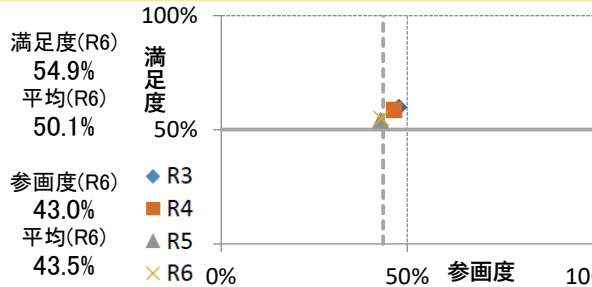
【担当当局】

人権生活環境部

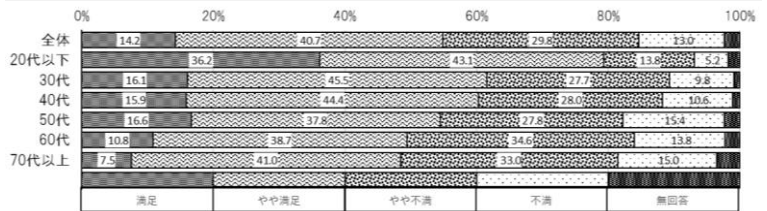
- ・市民との協働による啓発事業を推進します。
- ・人権侵害の発見や防止、人権に関する相談、人権侵害に対する救済・保護支援を進めます。
- ・あらゆる場面への女性の登用を図り、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組みます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	人権啓発 市民一人ひとりが、さまざまな人権問題を自分自身の課題とし、その解決に向けて努力できるよう、人権啓発など、あらゆる場・機会を通して人権啓発活動や人権同和教育を推進します。また、地域における市民主体の人権同和教育推進団体や地域での人権教育リーダーの育成をめざします。 新型コロナウイルス感染症の拡大における、コロナ差別(誹謗中傷)への対応について、正しい知識や情報を提供し、人権意識のさらなる高揚を図ります。	○人権啓発推進事業 ・人権啓発地区草の根運動推進会議に関する事業(人権地区別懇談会事業) 事前学習会 7/11 各地区年間実績 人権講演会等実施 15地区・29回 ・部落解放・人権大学連続講座(5回)開催(①7/26、②8/16、③9/13、④10/22、⑤11/15) ・「ひゅーまんフェスタ2024」の開催(8/25) ・性的マイノリティ支援 パートナーシップ宣誓制度申請件数 3件 ○人権施策総合計画策定事業 ・計画策定に係る審議会の開催(6/22)	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	人権講演会等参加者アンケートにおいて、今後も開催すべきかという設問に対し、「積極的に行うべきである」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	48.9	59.9	67.7	64.2	62.8	58.9
2	非核平和 幅広い年代の市民が集い、平和に関心を持つために、戦争体験の伝承を含めた総合的な平和学習の機会を提供します。 また、児童生徒への平和への意識向上に向けて、市内小・中学校と情報共有を行い平和学習につなげます。	○非核平和都市推進事業 ・非核平和推進中学生広島派遣事業(市内中学校より各1名、合計10名参加) 参加者事前学習会(7/29) 広島現地派遣(8/5～8/6) 平和記念式典参列、被爆者講話聴、等「ひゅーまんフェスタ2023」における報告と市民への発信(8/25) ・非核平和推進パネル展の実施 本庁舎内(8/1～8/30) 各支所管内公共施設(8/1～8/15) 銀座ギャラリー(8/1～8/15)	成果指標	中学3年生の平和への貢献度					
			成果指標の説明	中学生広島派遣の代替として実施した中学生アンケート、または、中学生広島派遣事業に参加した中学生へのアンケートにおける、平和な世界をつくるための取り組みへの意欲(1. したい 2. できればしたい)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	74.7	57.3	75.0	73.4	64	83.0
3	男女共同参画 男女共同参画基本計画に掲げる3つの目標「あらゆる分野における男女共同参画の推進」「共同参画に関する意識の普及と教育推進」「ワーク・ライフ・バランス(WLB)の実現」の達成に向け、あらゆる場面での政策決定の場への女性の登用促進、及びこれを進める指導者の育成、男女共同参画の啓発や学習機会の推進、DV防止の取り組みや女性の相談窓口の開設、企業への働き方改革の推進や「ハタラクカタ応援宣言」企業の拡大に努めます。	○男女共同参画推進事業 ・男女共同参画フォーラム「いきいき未来いが」の開催(7/6) ・女性防災リーダー連続講座(5回)の開催(①8/9、②10/24、③12/6、④1/17、⑤2/14) ・男女共同参画連携映画祭の開催(10/5) ・女性のエンパワメント講座の開催(7/19) ・イクボス講座の開催(1/22) ・女性法律相談(4～3月) 件数 27件	成果指標	女性登用率					
			成果指標の説明	市が設置する審議会・委員会の女性登用率					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	23.4	24.9	26.9	29.6	29.9	30.0
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)						

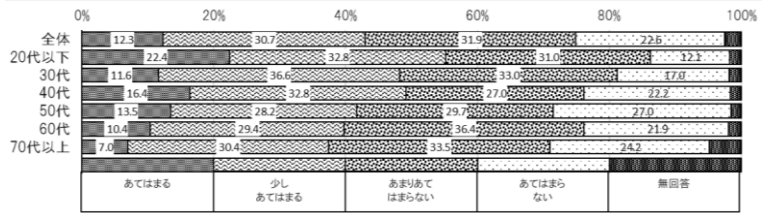
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



- 傾向
- ①満足度は平均より高いが、参画度は平均程度である。
 - ②満足度・参画度ともに下降してきている。
 - ③満足度・参画度とも若年層の方が高く、年代が高くなるほどに低い傾向にある。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案		
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業案 ・多様な差別の撤廃に向けて人権相談体制を整備し、包括的差別禁止条例策定に取り組む。 ○既存事業 ・人権問題地区別懇談会や講演会、研修会等の実施について、支所や関係機関と連携して啓発に取り組む。 ・「地域に根差した人権教育・啓発学習交流会」の開催を継続し、各地域で主体的に人権同和教育・啓発を進めるリーダーの育成を図る。 ・個別の人権課題解決に向けて、その理解を深めるために、人権パネル及びリーフレットを作成する。 ・ロゴフォームを活用した人権相談窓口を周知する。
2	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業 ・戦後80年を迎えるにあたり、「平和の集い」を開催する。 ・非核平和都市宣言の懸垂幕を作成し啓発を進める。 ○既存事業 ・中学生対象の広島派遣を行い、日常の人権学習と平和の尊さをつなげて考える還流会を全中学校で行う。
3	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○既存事業 ・講演会や研修会などの啓発活動を引き続き実施し、参加者を増やす取り組みを進めることで、男女共同参画に対する市民意識を高める。
4	効果が出ている点	
	課題	

伊賀流自治の視点

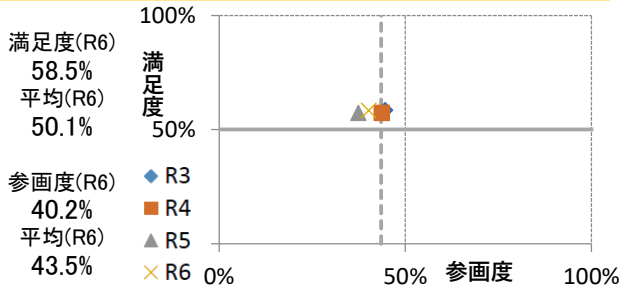
【主担当部局】

人権生活環境部

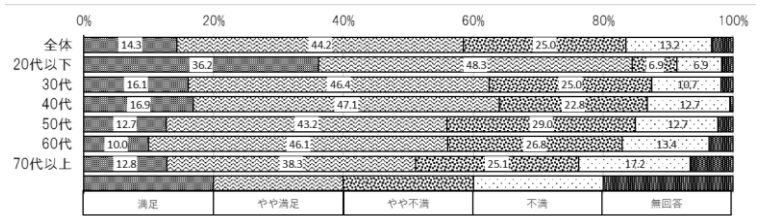
・部落問題の解決に向けて、隣保館における各種相談業務を分析し、課題を把握するなかで必要な施策を立案します。さらに残された課題を市民と共有します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	同和施策 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、部落差別を受けている地域の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを体系的に整理し、実施します。	○計画策定事業 ・伊賀市部落差別解消(第4次伊賀市同和施策)推進計画を策定した。 ・隣保館および庁内職員を対象に動画研修を行い、新しい計画への理解を深めた。 ○啓発事業 ・SNS版ミニ人権大学や地域での各種人権講座・講演会を開催した。	成果指標	参加者の意識向上度					
			成果指標の説明	隣保館・児童館・教育集会所の同和問題研修会アンケートの理解度「たいへん深まった」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	62.7	60.19	89.7	91.8	86.5	72.7
2	隣保館・児童館・教育集会所 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施し、地域のコミュニティセンターとして住民のニーズに応じた自立支援を図ります。 児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。 教育集会所では、部落差別による教育的不利な環境におかれている児童生徒の学習機会を確保し、自尊感情の醸成や自己実現を図ることで、将来展望を持てるよう学力保障に努めます。また、生涯学習として人権同和教育推進活動の充実を図り、個別の人権課題解決に向けた取り組みを市民相互で行います。	○隣保館 ・人権啓発事業のほか、地域のコミュニティセンターとして地域福祉事業、各種相談事業を実施し、文化教養の向上を目指した各種教室(識字・パソコン・手話・俳句・陶芸等)の開催や、福祉事業(高齢者見守り・高齢者交流会・健康教室等)の開催、生活全般に係る相談業務を実施した。 ○児童館 ・放課後の子どもの居場所として地区内外の児童を対象に自主学習や体験学習を通じた学習支援を行った。 ○教育集会所 ・部落問題の学習の場として、小中学生の地区学習会や、高校生・青年・保護者の活動の場として、学校と連携して事業に取り組むとともに、次世代の担い手育成として、青年達による小中学生への活動支援を行った。	成果指標	年間相談 延件数					
			成果指標の説明	生活福祉・教育・子育て・就労等の年間相談件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	3,149	3,560	3,251	3,376	4,213	3,100
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

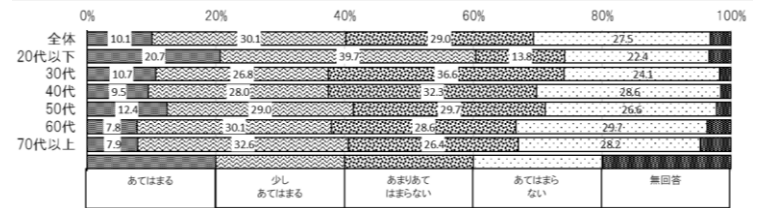
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



- 傾向
- ①満足度は平均より高いが、参画度は平均より低い。
 - ②満足度は、概ね60%弱で推移しているが、参画度は、前年度より上がったが、令和3年度当初より下降傾向である。
 - ③20代以下の満足度・参画度がともに高い。60代以上の参画度が低い。

【CHECK②】

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況
			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	・研修会等に参加した人の研修に対しての満足度は概ね90%を超えており、研修会での人権意識の啓発と醸成が図れている。	計画通り進めている ・意識調査に関するアンケートの回収率が85%程度にとどまっていることから、人権意識を持って参加していただく方にアンケートに回答してもらえるような働きかけを行い、回収率の向上を図る。 ・シート用紙を見直し、初めて参加する人の確認や連続講座の参加回数を計れるようにし、広く市民が参画する差別解消に向けた取組みの進捗状況が確認できるようにする。
	課題	・今なお部落差別が残る現状を踏まえ、現在社会が抱えている矛盾や人権を大切に社会の構築をめざして策定した伊賀市部落差別解消(第4次同和施策)推進計画に基づき、国・県や関係諸機関・諸団体、企業・事業者を含め広く市民が参画し差別解消に向けた取組を進める必要がある。	
2	効果が出ている点	・高齢化に伴い、隣保館からアウトリーチによる相談対応を行うことで相談件数が増え、隣保館を必要としている人にサービスを提供できている。 ・児童館では、学校区の児童を対象にして様々な事業を行い、児童の健全育成と人権意識の啓発と醸成が図れている。 ・各教育集会所で活動する仲間がつながり、差別をなくすために主体的に行動するリーダーを育成する学習会や交流会を実施した。	計画通り進めている ・隣保館、児童館ともに、設置目的の再確認を行い、事業実施に努める。特に隣保館においては、隣保館だよりに困りごとの相談先になっていることをアピールする内容を定期的に掲載するなど、積極的な相談業務の受け入れを推進する。また、地域住民が高齢化していることに伴い、見守り業務などアウトリーチでの相談活動を積極的に進めよう努める。 ・小学生～青年まで各年代毎の学習会や交流会を継続して実施し、差別をゆるさない活動を今後につなげていくための活動支援を継続する。 ・次代を担うリーダーの育成につなげるため、各集会所を拠点とした高校生や青年の活動の場の提供や人権活動の支援を継続して行う。
	課題	・高齢化に伴い、隣保館で取り組む地域交流事業(教室)の利用率が低下する傾向を踏まえ、近隣地域の住民を含めた交流の場として、あるいは相談や人権学習の場として活用できるよう隣保館活動のあり方を検討する必要がある。 ・児童館では、児童に健全な遊びを提供することにより健康を増進し、情操を豊かにするだけでなく、保護者会、子ども会等の地域組織活動の育成を図る等、児童の健全育成に関する総合的な事業を行う必要がある。	
3			
4			

伊賀流自治の視点

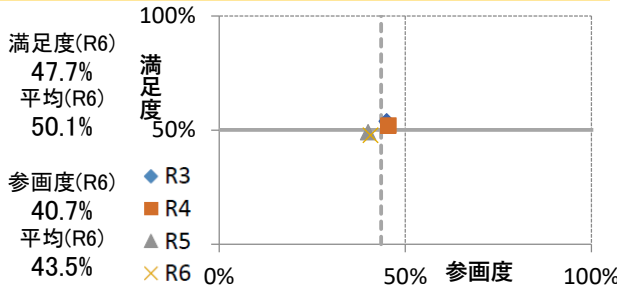
【主担当部局】

教育委員会

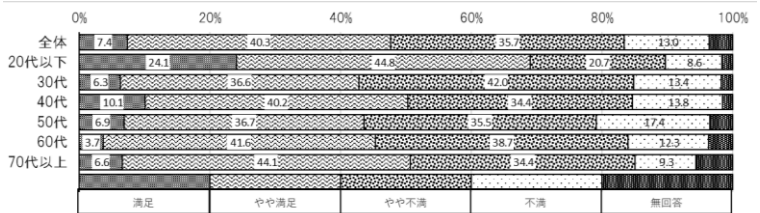
- ・教育委員会は、伊賀市教育大綱、伊賀市教育方針、伊賀市人権同和教育基本方針に基づき、子どもたちが個性を伸ばし、夢を追い求められるよう、一人ひとりが確かな人生観を持ち、心豊かで健やかに成長する教育をめざします。
- ・各学校・幼稚園は、教育を取り巻く環境が激しく変化するなかで、学校・幼稚園教育への要請に対して、迅速かつ誠実に対応します。
- ・学校・幼稚園の情報を分かりやすく提供し、学校・幼稚園の課題を地域全体で共有できるよう努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	学校マニフェスト 確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱に、子どもたちの自立をめざすために取り組むべき努力目標、具体的な取り組み内容等を学校(園)マニフェストとして作成し、保護者や地域の方に公表し、評価を受け、改善を行い、学校(園)経営の質の向上に努め、保護者・地域に信頼される学校・幼稚園づくりをめざします。 確かな学力の保障については、児童生徒1人1台のタブレット端末等のICT機器を有効に活用し、一人ひとりの個性に応じた教育を一層推進し、学力の向上に努めます。	○地域とともに学校マニフェスト推進事業 ○学力向上推進事業 ○人権同和教育推進事業 ○キャリア教育推進事業 ○読書活動推進事業 ○英語指導助手招へい経費 ○教職員研究研修経費 ○伊賀市教育研究センター管理運営経費 ○学校管理用備品整備事業 他	成果指標	学校改善に努めていると感じる保護者の割合					
			成果指標の説明	各学校が実施する学校評価アンケート(保護者用)において「学校は、保護者や地域(学校運営協議会委員等)の意見を取り入れて学校改善に努めている。」(12月末時点)と回答した割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	90	88.9	90.6	89.6	88.2	90
2			成果指標	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合					
			成果指標の説明	全国学力・学習状況調査(児童生徒質問用紙)において「将来の夢や目標を持っていますか。」(4月時点)に対して肯定的に回答した小学6年生と中学3年生の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	76.8	74.2	73.5	74.3	76.1	80.0
3	児童生徒の支援 障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や必要な支援を行います。また、こどもの育ち支援課発達支援係、いが児童発達支援センターと連携しながら、適切な支援や望ましい就学指導をめざします。さらに、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、学校・学級に応じた教育支援員の配置に努めます。「伊賀市いじめ防止基本方針」「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを正確かつ積極的に認知し、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携していじめ問題に対応します。また、児童生徒が情報に対して正しい判断力を持ち、安全かつ有効に活用できるよう、情報モラル教育を進めます。いじめやネットトラブル等の問題行動を早期に把握し、関係機関との連携及び教職員の共通理解を図り、指導体制を確立して指導にあたります。また、教育相談等を通じて共感的理解に努め、児童生徒の持つ生活課題を正しく把握し、その早期解決に努めます。	○不登校児童生徒支援事業 ○外国人児童生徒支援事業 ○特別支援教育充実事業 ○生徒指導推進事業 ○部活動指導員配置促進事業 ○健康管理経費 ○学校保健管理経費 ○就学奨励費 ○学校給食管理経費 他	成果指標	個別的教育支援計画・指導計画の作成割合					
			成果指標の説明	学校教育課による各学校への調査結果(12月末時点)の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	100	100	100	100	100	100
4			成果指標	情報モラル学習を実施する学校の割合					
			成果指標の説明	学校教育課による各学校への調査結果(12月末時点)の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	100	100	100	100	100	100

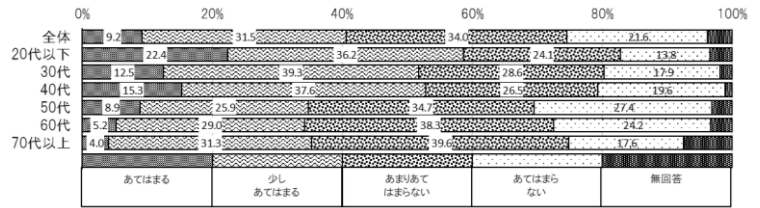
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



傾向

満足度はほぼ平均的であり、参画度は平均と比べて低い。
満足度が年々下がってきているが、20代以下の満足度は高い。
参画度は、若干上昇したが、50代以上の参画度が低い。

【CHECK②】

効果検証

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

1	効果が出ている点	・全国学力・学習状況調査の結果、中学生が全国平均を下回っているが、特に数学はほぼ全国と同じ状況になってきている。 ・読書活動推進事業で、モデル校を3校に増やし、学校図書館の整備などに取り組むとともに、他の学校においても読書活動に力を入れたことで、児童の読書の習慣化の面で効果が見られた。	計画通り進めている
	課題	・マニフェストに対する学校評価アンケートの結果で肯定的な回答をした割合は、90%前後だが、マニフェストの3本柱の1つである学力の向上には、教職員の授業改善等に課題が見られる。 ・全国学力・学習状況調査の結果、中学生が全国平均を下回っている状況が続いており、学力の向上を図る必要がある。小学校は、全国平均を上回っているが、中学1年生の入学時に実施するNRTでは、偏差値が50未満の状況である。 ・全国と比べて伊賀市の児童生徒は、家庭学習の時間が短く、読書の時間も短い状況である。それに対して、ゲームやスマートフォンをする時間が長い、といった経年的な課題があり、さらなる取組が必要。 ・職場体験学習について、様々な事情により受け入れ不可となる事業所も出てきている。	
2	効果が出ている点		
	課題		
3	効果が出ている点	・特別な支援が必要な児童生徒や不登校児童生徒、外国人児童生徒など支援が必要な児童生徒が増加しているが、それぞれのニーズに合った適切な指導や支援を行っている。 ・中学校の休日部活動に関して、昨年度3種目において地域展開を完了することができた。 ・いじめの認知件数が減少するとともに、小さないじめも見逃さない状況ができています。	計画通り進めている
	課題	・特別な支援が必要な児童生徒が増加傾向の中、通常学級における児童生徒のニーズにあった支援を推進していく必要がある。 ・不登校児童生徒へのきめ細かい対応が必要。 ・外国人児童生徒の増加、多言語化、住所地の広域化が進む中、初期適応指導教室に通級できない児童生徒がいる。 ・中学校休日部活動の地域展開に向けて、関係課、関係団体等と連携し、環境の整備、予算の確保等を進める必要がある。 ・いじめの初期対応が適切になされないケースや報告・連絡・相談体制が十分確立できていないケースが見られる。	
4	効果が出ている点		
	課題		

伊賀流自治の視点

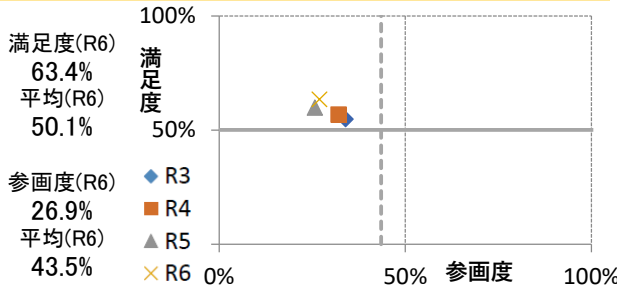
【主担当部局】

教育委員会

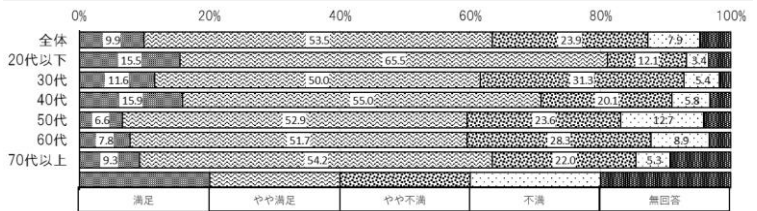
- ・学校統廃合などを見据え、計画的に学校施設の整備を進めます。
- ・教室やトイレなどの学習環境の維持向上に努めます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	校区再編 適正な児童生徒数での学校運営を行うため、校区再編計画を策定した地区の該当校の統合を推進します。また、将来の児童生徒数の減少を見据え、子ども達にとって望ましい教育環境の検討を進めます。	○委員会管理経費 ・伊賀市学校みらい構想検討委員会による伊賀市学校みらい構想基本計画の策定(答申) ○情報化教育推進経費 ・GIGAスクール構想への対応、校務支援システム・複合機導入等 ○スクールバス運転管理及び維持経費 ・直営、委託等によるスクールバスの運行 ○遠距離通学者等通学経費 ・遠距離通学児童生徒の通学費補助 ○教材・教具整備費 ・図書、教材備品等の購入 ○中学校クラブ遠征参加経費 ・中学校クラブ大会等にかかる保護者負担軽減 ○一般管理経費 ・小学校プール授業の民間委託	成果指標	複式学級数					
			成果指標の説明	R2.4月現在、校区再編の計画がある小学校の複式学級数《現在、2地区5校で校区再編を計画しており、R6には統合を完了させる予定であるので、その時点で2地区の複式学級が解消されている。》					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(学級数)	2	2	2	0	0	0
2	学校施設整備 学校施設長寿命化計画に基づき、長寿命化の視点に立った施設・整備の保全を計画的に行います。また、情報教育の推進など時代の変化に伴う課題に対応した機能整備も進めます。 児童・生徒数が少ないスクールバス運行路線については、規模に応じた運行方法などを検討します。 安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、小学校給食のセンター方式への段階的移行に向け、学校・関係事業者との協議を進めます。	○施設維持管理経費 ・学校の保守点検、清掃、修繕 ○施設改修事業 ・学校施設の改修 ○青山中学校大規模改修事業(繰越) ・学習環境改善に向けた大規模改修 ○上野東小学校及び成和西小学校屋内運動場大規模改修工事設計業務 ・経年劣化等による大規模改修工事に向けた設計業務 ○新型コロナウイルス対策事業 ・補助金を活用した空調設備、トイレ改修等 ○給食センター管理運営経費 ・センター給食の管理運営事業	成果指標	施設改善率					
			成果指標の説明	学校施設長寿命化計画に掲載している建物数のうち、事業計画に基づき改修などを行った建物の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(%)	22.0	8.8	14.7	22.0	28.7	39.0
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

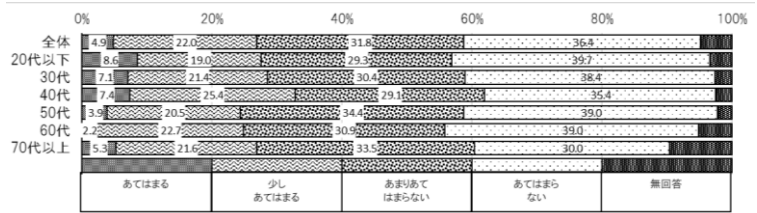
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



- 傾向
- ・満足度は平均と比べて高いが、参画度は平均と比べて低い。
 - ・満足度は上昇しているが、参画度は下降している。
 - ・20代以下の満足度が高い。
 - ・50代の参画度が低い。

【CHECK②】

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案			
1	効果が出ている点	・校務支援システム、複合機の導入により、教職員の働き方改革とともに、児童生徒と向き合う時間の拡充につなげた。 ・費用負担のないスクールバスの運行及び遠距離通学児童生徒への補助により、義務教育における保護者負担の軽減を図った。	計画通り進めている ・伊賀市学校みらい構想基本計画に基づき、10年先を見据え、子どもたちの教育のあり方や教育効果の更なる向上を考え、地域の実情や特性も考慮した多様な教育活動の可能性も含め、望ましい学校規模、学校配置の適正化など、教育環境をより良くすることを第一に検討を行う。 ・市内小・中学校における今後の通学方法と費用負担に関し、基本的な考え方に基いて検討を行い、格差の是正とともに児童生徒の安心安全な通学手段の確保に努める。 ・学習用端末、校務支援システム等の回線事故等によるネットワークの停止や学習環境に影響が生じないよう、継続して適切なネットワーク、システム等の保守点検や維持管理を行う。
	課題	・さらなる少子化が予測されるなか、将来の児童生徒数を想定し、適正な学校・学級規模を維持するため、総合的な検討が必要。 ・公共交通機関の状況も勘案し、遠距離となる児童生徒の通学方法を検討する必要がある。また、保護者の費用負担の不均衡を是正する必要がある。 ・端末の整備・更新を行うとともに、家庭で使用するための環境支援や機器保守などを継続的に行う必要がある。	
2	効果が出ている点	・交付金などによる財源を活用し、事業計画の前倒しなどを行いながら、着実に事業進捗が図れている。 ・いがっこ給食センター夢厨房等設備機器更新計画に基づき、厨房機器を更新するとともに施設設備の修繕を行い、安定的に学校給食を提供した。	計画通り進めている ○既存事業案 ・国の補助金等を有効に活用し、計画に基づき施設・設備の保全を実施する。又、さらに国の財源が確保可能な場合は有効に活用する。 ・学校施設長寿命化計画の修正案に沿った、施設・設備の保全を計画的に履行する。 (R6年度実績) ・便所改修（中瀬小、西柘植小、阿山中、崇広中） ・空調改修（柘植小、緑ヶ丘中） ・真空冷却機更新（給食センター夢） ・除害施設工事（給食センター元気） (R7年度計画) ・大規模改修（上野東小学校屋内運動場） ・自校調理場や給食センターでは、年度計画に基づき給食提供に影響のないスケジュール管理を行い、施設設備、厨房機器の更新を行う。 ・消毒保管熱風発生装置修繕（給食センター夢） ・配送車1台追加、消毒保管庫の増強（給食センター元気）
	課題	・2024(令和6)年5月に施設整備実施計画を5か年分(2029(令和11)年度まで)更新した。財政状況や社会情勢等の検討、また、現在検討中の「学校みらい構想」の進捗によっては、実施計画の見直しを図るなどの対応が必要。 ・老朽化している機器や設備への対策が必要。 ・学校給食については、厨房設備の老朽化への対応、センター方式への移行を計画的に行う必要がある。	
3			
4			

伊賀流自治の視点

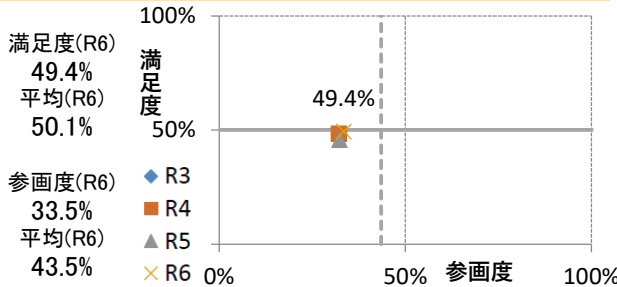
【主担当部局】

教育委員会

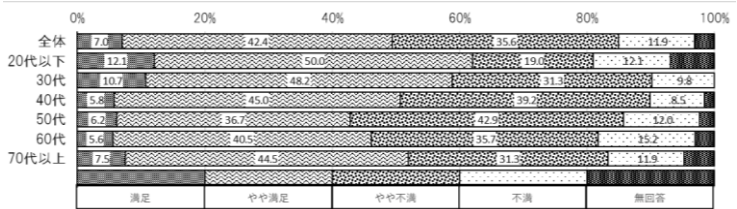
- ・すべての市民がいつでも・どこでも学べる体制を整え、地域で活躍できる人材を育成します。
- ・子育てや子どもの健全育成の指針となる「輝け！いがっ子憲章」を推進します。
- ・図書館においても、郷土愛を育み、情報の拠点・交流の場としての機能を充実するよう努めます。

【PLAN】		【DO】		【CHECK①】						
基本事業		2024(R6)年度の事務事業		KPI(成果指標)						
1	生涯学習 若者の社会参画として成人式の運営、中間層世代の参画を促すための初めての講師サポート事業、まちづくりにおける人材育成を目的にした研修会や講座など市民の学習意欲・社会参画に応じた学習・参画の機会を提供します。 また、各住民自治協議会が特色ある生涯学習活動を行えるよう、関係課や関係機関等と連携し積極的に支援を行います。さらに、地域間の情報共有の場や意見交換会、地区市民センターを利用した出前講座など地域との連携により事業を実施します。	○成人式開催経費 ・18歳(5/4)の成人式の開催 ○社会教育推進経費 ・社会教育行政への提言や成人式の協力、独自事業「いがファミリーフェスタ」を実施 ○公民館事業 ・初めての講師サポート事業、読み聞かせボランティア入門講座等を実施 ○生涯学習活動事業委託 ・住民自治協議会と生涯学習活動に関する委託契約を締結し、活動を支える生涯学習支援員を配置する。	成果指標	人材育成講座 参加者数						
			成果指標の説明	初めての講師サポート事業など地域で活動できる人材育成のための講座及び交流会の参加者数						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(人)	274	492	719	666	454	480	
				R7.5.30修正						
2	図書館活動 すべての市民がどこに住んでいても等しく図書館サービスを受けられるよう、図書自動貸出や予約本自動受取等サービスのIT化を進めるとともに、学校図書館、上野点字図書館、歴史・文化等関係施設や、読み聞かせボランティアグループ、関係団体などと連携し、図書館サービスの充実に努めます。さらに、地域資料や地域振興支援等「地域の特性を活かすサービス」、児童・ヤングアダルト・シニア・障がい者・多文化等「利用対象者別サービス」、レファレンス等「資料・情報提供サービス」について、より効率的で専門性の高い図書館サービスを提供します。	○図書館管理経費 ・図書館利用及び読書推進 ・貴重資料のデジタルアーカイブ化による資料の利用促進	成果指標	図書館年間入館者数						
			成果指標の説明	上野図書館の年間入館者数 *サブ指標として現図書館の目標値を表記 《目標値は、伊賀市新図書館基本計画(H26.3策定)に記載の新図書館の延床面積3,600㎡をもとに、「伊賀市のにぎわい創出に向けた庁舎移転後の利活用方針について(H28.8.16)」資料として公表した入館者数(97.67人／㎡)×3,600㎡を引用》						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(人)	80,523	62,224	65,311	72,426	75,778	352,000 *71,100	
3	子ども読書活動 家庭、地域、学校、図書館等との連携を図り、子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えます。また、市内で活動する読み聞かせボランティアグループの育成を行うとともに、読み聞かせボランティアグループへ図書資料等の団体貸出を行い、活動支援を行います。	○図書館管理経費 ・子どもの読書活動推進	成果指標	児童書の年間貸出冊数						
			成果指標の説明	上野図書館ほか分館における児童書の年間貸出冊数						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(冊)	118,710	123,497	126,749	135,617	136,824	145,000	
4	青少年健全育成 市民団体等と連携し、「輝け！いがっ子憲章」の周知・啓発を行います。家庭・学校・地域が一体となり青少年の安全確保と健全育成を目的として、子どもの居場所づくりである放課後子ども教室の実施や、子どもの見守りや相談支援を行う青少年センターの充実を図ります。 また、青少年育成団体の活動を支援し、心身ともに健康で、豊かな未来に希望を持った青少年の育成を推進します。	○青少年健全育成事業 ・青少年育成市民会議を中心とした啓発事業などを実施する。 ○放課後子ども教室推進事業 ・市内4カ所の放課後子ども教室運営を委託する。 ○学校支援地域本部推進事業 ・地域未来塾事業を委託する。 ○青少年センター運営経費 ・青少年に対する街頭補導や相談活動を実施する。	成果指標	体験事業参加者数						
			成果指標の説明	教育委員会及び青少年育成団体が実施する体験教室、子ども教室への参加者数						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)	
			実績(人)	7,360	1,844	2,672	2,896	4,123	7,500	

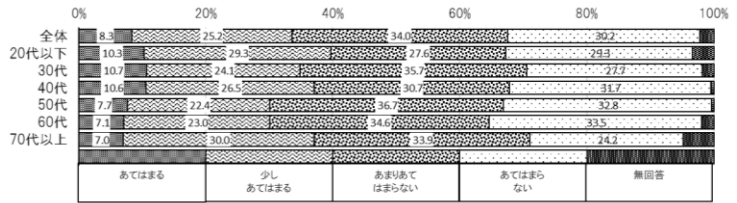
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R6)



参画度(R6)



傾向
満足度はほぼ平均的であり、参画度は平均と比べて低い。
満足度、参画度ともほぼ横ばいで推移している。
20代以下の満足度が高い。
50代以上の参画度が低い。

【CHECK②】

効果検証

1	効果が出ている点	・対象年齢を18歳とした成人式は、対象者が実行委員として参画・企画して実施し、75.1%の方が参加された。 ・各地区市民センターに生涯学習支援員を配置することで、身近な場所で生涯学習活動が行われるため、事業に参加しやすく、地域に根ざしたものとなってきている。
	課題	・社会教育に関する現状や課題を知るために活動されている社会教育委員の取り組みについて、地域ではあまり認識されていないのが現状である。 ・生涯学習支援員を配置して3年目だが、生涯学習支援員と住民自治協議会との関係性や地域の現状等から、新たな生涯学習事業の推進に関して地域差がある。 ・現在も根強く存在する部落差別をはじめとするあらゆる差別を撤廃するためには、行政・地域・企業・市民が一体となって学習の場を広げ、それぞれが主体的に人権同和教育を推進することが必要である。 ・あらゆる差別の撤廃に向け、部落差別解消推進法や伊賀市におけるあらゆる差別の撤廃に関する条例に基づき人権啓発や教育を推進するため、教育集会所を拠点として、市民を主体とした人権教育推進リーダー育成に継続して取り組む必要がある。
2	効果が出ている点	・新図書館の開館に向け、市民が運営に関わり、協働できる取り組みの一つとして図書館ワークショップを開催したことで市民の関心を深め利用者の増加を見込んでいる。 ・学習室の利用方法を見直したことで、利用者が増加している。 ・移動図書館の運行を開始する準備が完了したことで、図書室が閉室した地域に新たな図書サービスを届けることができる。
	課題	・新図書館の開館に向け、人が集い、本に親しむ機会となる事業を実施する等、利用者を増やす取り組みが必要である。 ・図書館機能集約・再編により図書室が閉館する地域住民に図書サービスを届ける必要がある。 ・団体貸出など、地域での読書活動の支援が必要である。
3	効果が出ている点	・読み聞かせボランティアの活動を市広報等でPRし、広く研修会の案内をするなど、新たな後継者育成に繋げる。 ・図書館司書によるレファレンスを適切に行い、学校や地域への支援が充実している。
	課題	・読み聞かせボランティアの後継者を育成し、活動を継続する必要がある。 ・子ども達が読書に親しむために、学校図書館との連携強化が必要である。
4	効果が出ている点	・西柘植放課後児童クラブと西柘植放課後子ども教室の交流を行うことができた。 ・青少年健全育成を目的とし市内一斉に啓発活動を実施した。
	課題	・伊賀市青少年育成市民会議は伊賀市として一体化した組織運営と事業を行うべく2022(令和4)年に各関係機関を募り発足した団体で、今後より一体化した取り組みを充実させていくことが課題である。 ・青少年相談窓口の利用については、市広報やホームページ等で周知しているが、相談機関が充実していることや、電話相談だけでなく、気軽に相談できることを周知する必要がある。 ・乳幼児から小学生、中学生、高校生と子どもが成長していくにつれ、読書時間・読書量が減少する傾向にある。 ・伊賀市子ども読書活動推進計画を策定し、読書に親しめる環境づくりを進めていく必要がある。

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

計画通り進めている

・生涯学習を地域の身近なところで推進していくにあたり、生涯学習支援員の資質向上に向けた研修を継続して行っていく。また地域連携部と連携しつつ、各地区市民センターにおいて安定的に生涯学習活動が実施できるよう、生涯学習支援員をバックアップする社会教育指導員の雇用を継続し、生涯学習支援員を指導していく体制の検討を行い、生涯学習の充実につなげる。
・生涯学習支援員を配置して3年が経過し、これまでの活動内容や効果についての検証を行う。
・「成人式」から「20歳のつどい」への移行に伴い、これまで成人式で新成人に向け発信していた情報を手段を変え関係部署と連携して発信していく。
・地域に根差した人権教育を推進している各地域の同研・人権活動団体を支援する。また、人権教育を推進するリーダーを育成するため、教育集会所を拠点とした各地域での部落差別をはじめとするあらゆる差別撤廃に向けた活動を継続して行っていく。

計画通り進めている

・新図書館開館に向けたイベント開催等、市民に関心を持ってもらえる取り組みを行う。
・移動図書館事業を開始し、新たな利用者増に繋げる。
・いがい電子図書館の利用について、PRや利用支援を継続して行う。

計画通り進めている

・子ども読書活動推進計画の策定において、専門分野についての各関係機関との連携を行う。
・読み聞かせボランティア団体との交流会を開催し、情報共有、意見交換等を継続して行いつつ、活動実績のPRや新たなボランティアの募集を行う。
・セット文庫の配送や団体貸出を通じて児童生徒の読書への興味を引き出せるよう、学校図書館司書と連携する。

計画通り進めている

・青少年健全育成を目的とし、市内で一斉啓発活動に取り組む。
・青少年相談活動を継続して行う。
・子どもたちの豊かな感性を育み、親子のふれあいの大切さについて考えてもらえるイベントを行う。
・第3次子ども読書活動推進計画を策定し、地域や学校、図書館等と連携して子どもの読書活動の推進に取り組む。